

運輸システムEXPO 2015

同時開催：ワイヤレスジャパン2015、ワイヤレス・テクノロジー・パーク2015



開催結果報告書

◆会期: 2015年5月27日(水)~29日(金) 10:00~18:00 最終日は17:00まで

◆会場: 東京ビッグサイト西ホール

◆主 催: 運輸システムEXPO実行委員会

◆運営事務局: 日本イージェイケイ株式会社 / パラボックス株式会社

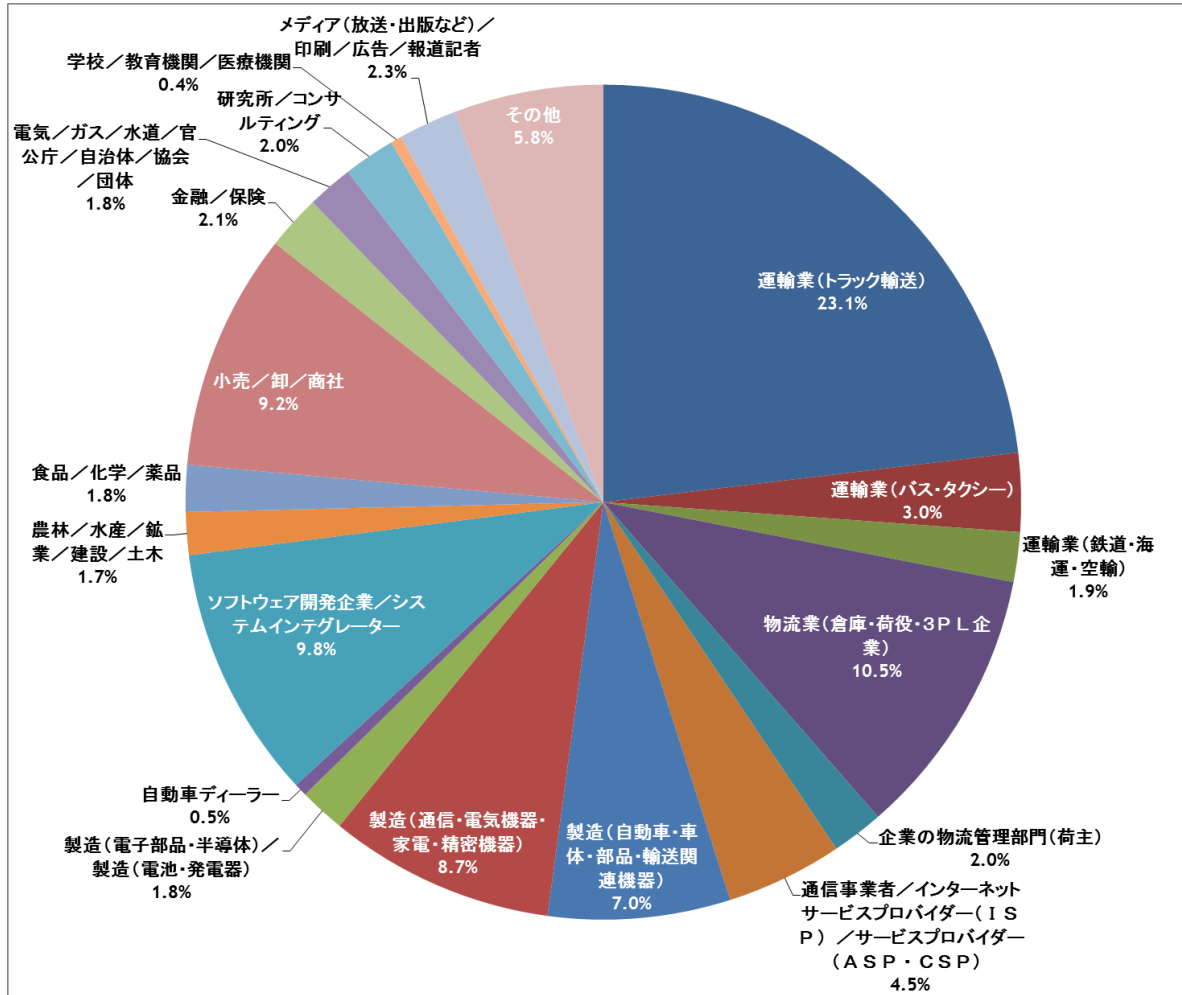
◆協 力: (公社)全日本トラック協会、(株)日新

◆後 援: (公社)日本バス協会、(一社)日本3PL協会、(公社)日本包装技術協会、
(一社)日本パレット協会、日本マテリアル・ハンドリング協会、
(一社)日本物流システム機器協会、(一財)環境優良車普及機構(LEVO)、
(一社)新日本スーパーマーケット協会 他

総来場者数：44,791名（2014年は、44,740名の来場者）

【内訳：5月27日（水）12,978名 / 5月28日（木）14,302名 / 5月29日（金）17,511名※同時開催展を含めた人数です。】

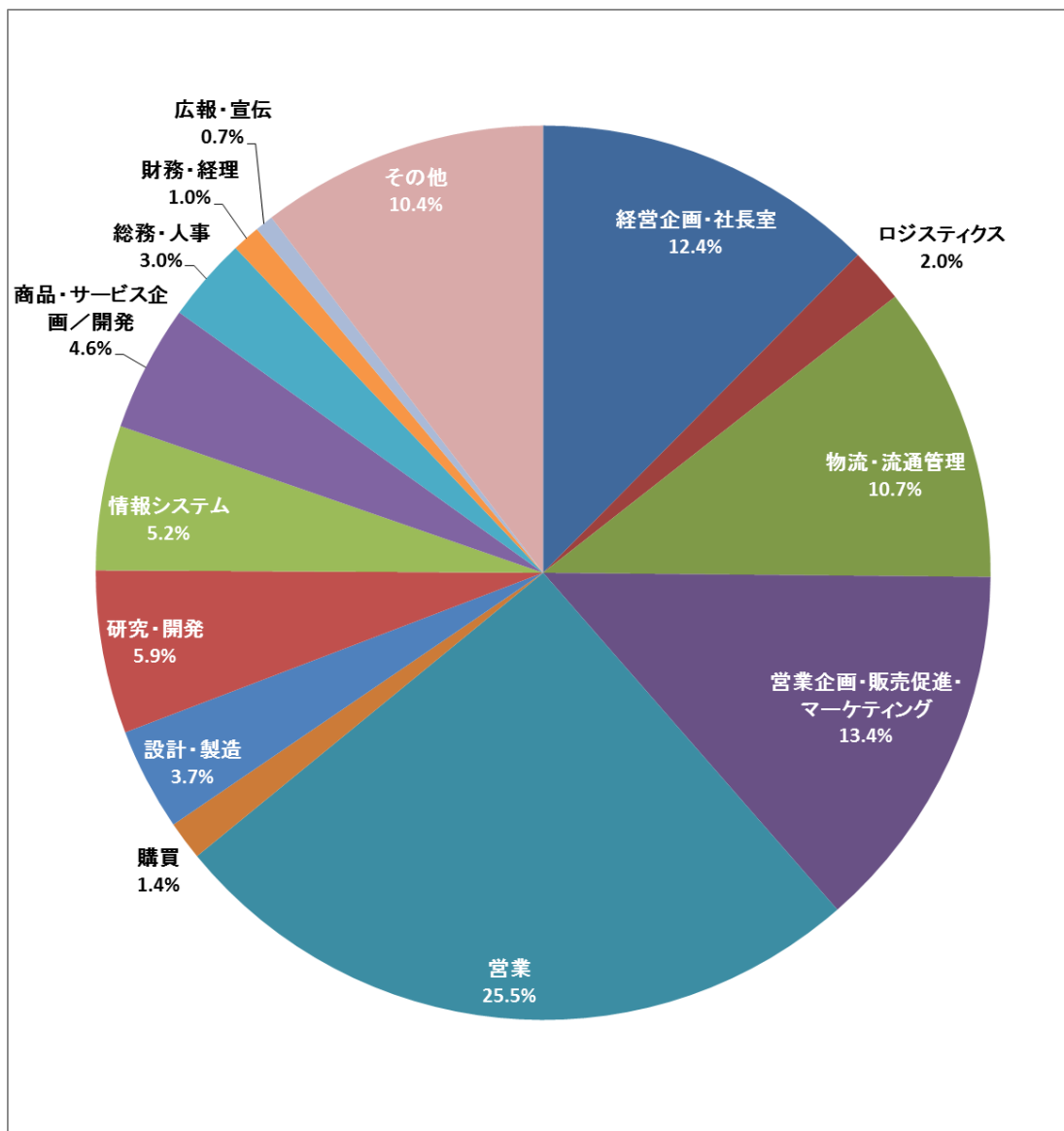
来場者の業種



- 2014年は、
- 運輸業(トラック輸送)・・・16.5%
 - 運輸業(バス・タクシー)・・・2.7%
 - 運輸業(鉄道・海運・空輸)・・・1.6%
 - 物流業(倉庫・荷役・3PL企業)・・・6.8%
 - 企業の物流管理部門(荷主)・・・1.7%
 - 製造(自動車・部品・輸送関連機器)・・・7.2%
 - 製造(通信・電気機器・家電・精密機器)・・・10.9%
 - 製造(電子部品・半導体) / 製造(電池・発電機)・・・3%
 - ソフトウェア開発企業 / システムインテグレーター・・・12.2%
 - 自動車ディーラー・・・0.3%
 - 小売・卸・商社・・・10.1%
 - 農林 / 水産 / 鉱業 / 建設 / 土木・・・1.5%
 - 金融・保険・・・1.6%
 - 食品・科学・薬品・・・1.1%
 - 電気 / ガス / 水道 / 官公庁 / 自治体 / 協会 / 団体・・・2.1%
 - 学校 / 教育機関 / 医療機関・・・0.7%
 - 通信事業者 / インターネットサービスプロバイダー (ISP) / サービスプロバイダー (ASP・CSP)・・・6.1%
 - メディア(放送・出版など) / 印刷 / 広告 / 報道記者・・・2.7%
 - コンサルティング / 研究所・・・2.3%
 - その他・・・8.9%

来場者アンケート

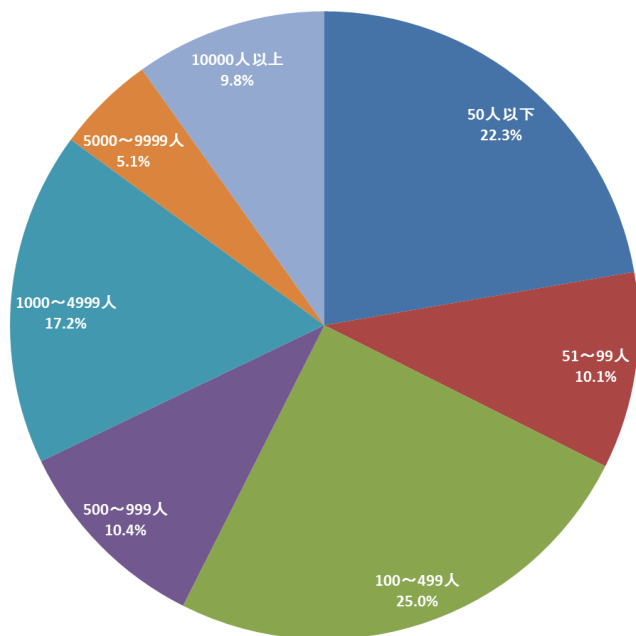
2015年来場者の職種



2014年は、
物流・流通管理・・・7.0%
ロジスティクス・・・1.5%
経営企画・社長室・・・11.0%
総務・人事・財務・経理・・・2.8%
情報システム・・・6.2%
商品・サービス企画／開発・・・5.7%
設計・製造・・・4.0%
研究・開発・・・8.2%
営業・・・26.7%
営業企画・販売促進・マーケティング・・・13.3%
広報・宣伝・・・0.9%
購買・・・1.4%
その他・・・11.3%

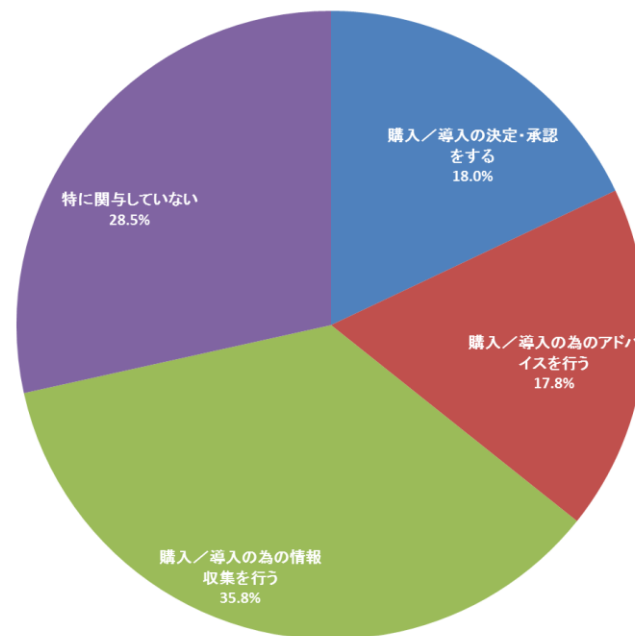
来場者アンケート

2015年来場者の勤務先従業員数



2014年は、
10,000人以上・・・6.0%
9,999~5,000人・・・2.7%
4,999~1,000人・・・12.1%
999~500人・・・17.3%
499~100人・・・27.9%
99~51人・・・13.3%
50人以下人・・・20.7%

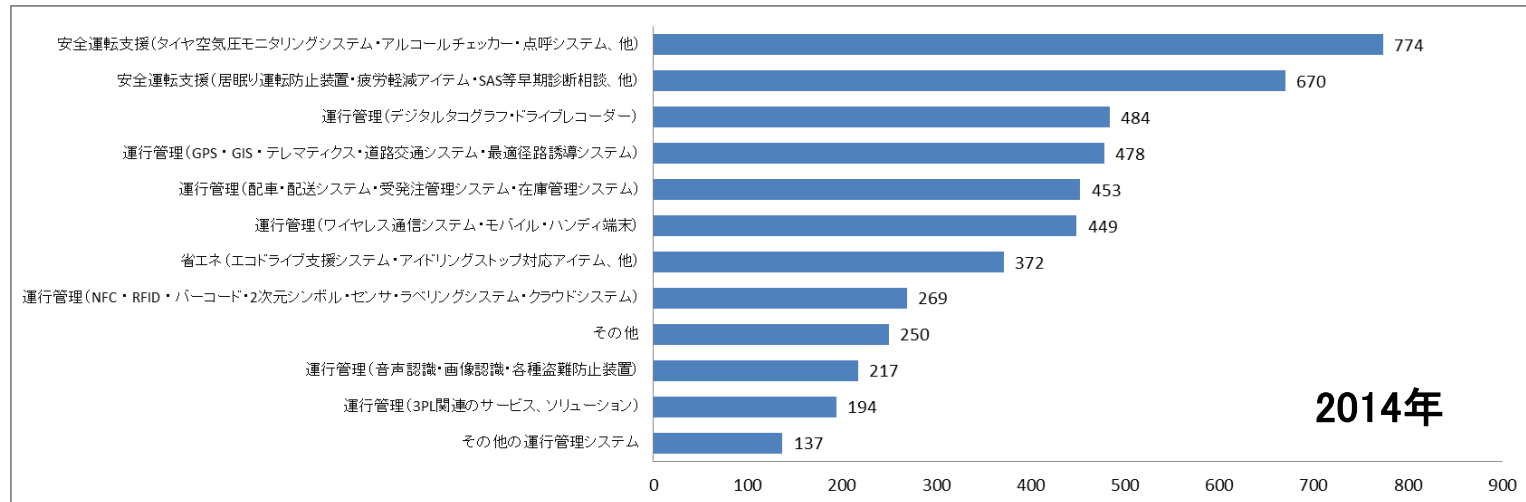
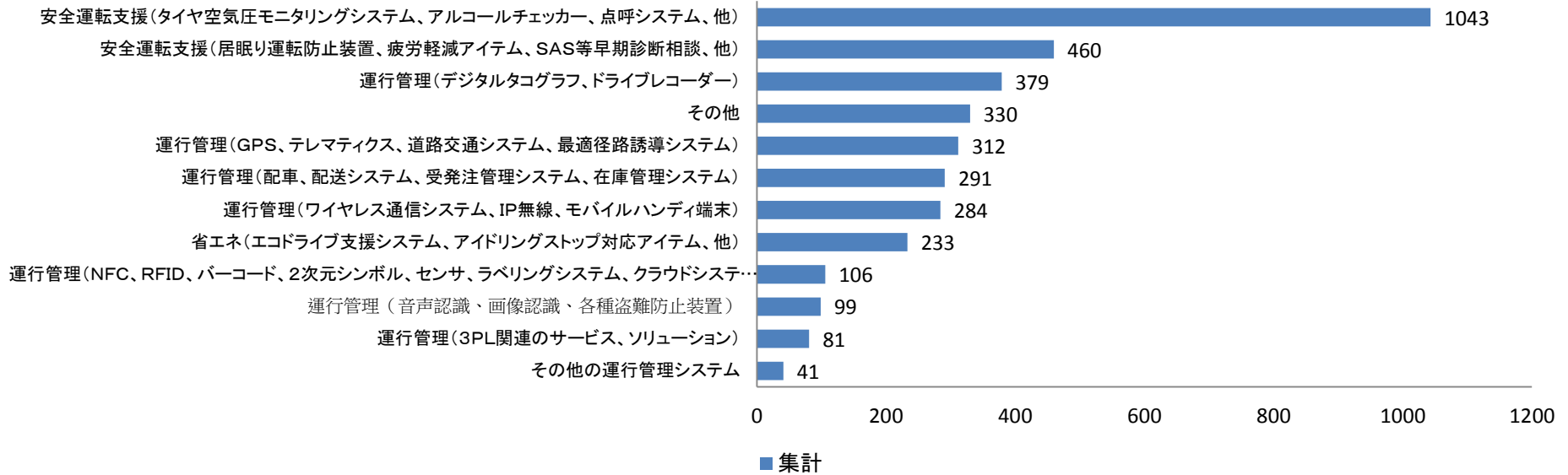
製品／サービスの導入に関わる立場



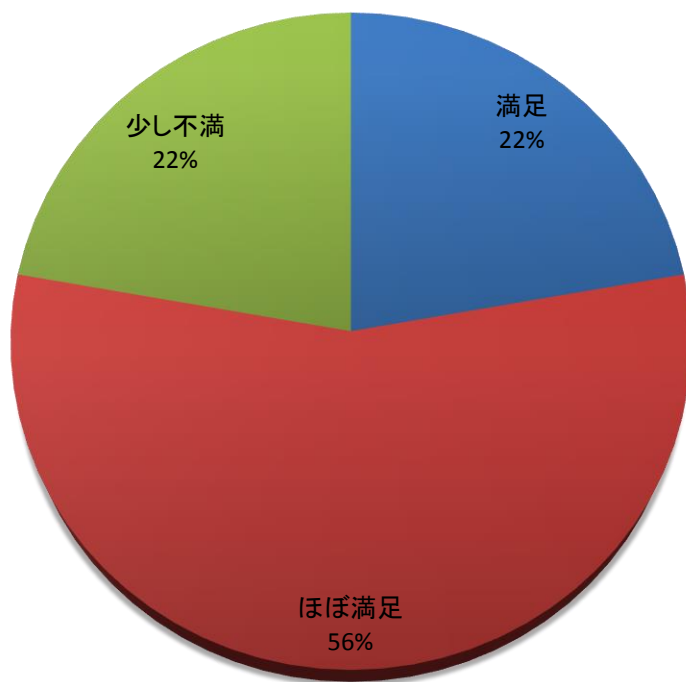
2014年は、
購入／導入の決定・承認をする・・・14.4%
購入／導入のためのアドバイスを行う・・・16.7%
購入／導入のための情報収集を行う・・・40.1%
特に関与していない・・・28.8%

来場者アンケート

来場者が関心のある分野/キーワード(複数回答可)



出展社満足度



理由1位、ターゲット来場者とコンタクトできた。
理由2位、予想以上の集客ができた。
理由3位、具体的な案件につながった。
新規顧客開拓ができた。
自社のイメージ向上ができた。

来場者と交換した名刺・・・平均：168,7枚

第1位540枚、第2位300枚、第3位200枚

株式会社あきば商会、アゼアス株式会社、株式会社NPシステム開発、快走韋駄天、協栄産業株式会社、共栄システム株式会社、クラリオン株式会社、株式会社ゴーガ、株式会社コムアソート、株式会社GISupply、株式会社シーネット、株式会社システムギアソフテック、ジャパン・トゥエンティワン株式会社、JUKI株式会社、株式会社デルタツーリング、株式会社城山、西菱電機株式会社、太陽工業株式会社、テクダイヤ株式会社、テレニシ株式会社、フィガロ技研株式会社、テレネット株式会社、東京ユニオン物流株式会社、株式会社東計電算、株式会社トータルフリートサービス、ナブテスコ、日米電子株式会社、株式会社ビジネスサポート、株式会社日立ケーイーシステムズ、株式会社 物流ウィークリー、フリッカーヘルスマネジメント株式会社、株式会社トライプロ、Bluebird Inc.、株式会社 ポート・ア・クールジャパン、株式会社マツキ、矢崎エナジーシステム株式会社、ユニオンツール株式会社



運輸システムEXPO2015 5月27日(水)展示会場内セミナープログラム

13 : 00～13 : 20	DHLによるサステナブルなパッケージソリューションの事例紹介 宮崎 恵之助氏 (DHLサプライチェーン株式会社 パッケージソリューション マネージャー) 今日の輸送における段ボール箱などのワンウェイパッケージに対し、地球環境やその持続可能性に配慮したリターナブルパッケージが求められているが、実際の運用では回収の仕組みが不十分であったり、回収費用を含めたコストが嵩むという課題がある。ロジスティクス企業としてのDHLによる、輸送・荷役・保管のトータルコストに配慮した超寿命型リターナブルコンテナやエア系緩衝材の開発事例を紹介する。
13 : 30～13 : 50	携帯電話・スマホ・通信機能付きハンディ・ターミナルを活用！ 配送進捗管理を主としたシステム導入事例 佐藤 桂子氏 (株式会社コムアソート ソリューション営業部 チーフアナリスト) ドライバー様が配送先に「到着」「出発」などの状況を携帯電話やスマホからボタンを押すことで運行管理者様に通知するシステムをベースとしています。お客様のニーズに応じた配送進捗管理システムに仕上げます。たとえばカゴ車の管理や荷物などの検品、Web上での荷主様への配送報告、その他事例を交えてご紹介いたします。
14 : 00～14 : 20	後付け可能な衝突防止補助システム、モービルアイについて 佐藤 元気氏 (ジャパン・トウエンティワン株式会社 アイモバイル事業部 執行役員) 日産やホンダ、ボルボ、BMWのメーカオプションとして実績のあるシステムの後付け版です。カメラを使った画像認識を元に、前方車両との追突の危険がある時や車線を逸脱しそうな時に警報音にてドライバーに注意喚起を行います。日本国内で発売開始3年半にて3万台を超える車両への導入実績があり、大型のトラック・バスから小型の軽自動車まで取り付けが可能です。
14 : 30～14 : 50	運転中の体調に起因する事故リスク低減装置【スリープバスター】と運行管理ソフト【ヒュータコ】の活用事例の紹介 中村 英資氏 (JUKI株式会社 事業開発部) 国土交通省 自動車事故対策に適合機種に認定された、後付け簡単な【スリープバスター】はドライバーの運転中の体調を予測し、お知らせします。居眠り警告(入眠予兆)の発現後、運用ルールを設定することで、より効果的に居眠り事故を低減された活用事例を紹介。運行後は【ヒュータコ】の解析で、連続運転3時間経過後に集中力や判断力が低下し、ヒューマンエラーの発生の可能性が高まることが分かり、連続運転時間の運行ルール改善や若いドライバーは休み明け後、体調が一番悪い状態になる傾向が分かり(休み中の不摂生が要因)生活習慣の改善に役立っている活用方法を紹介。
15 : 00～15 : 20	「ヒヤリ・ハット」防止のためのフリッカー疲労計測システム 原田 暢善氏 (フリッカーヘルスマネジメント株式会社、株式会社トライプロ フリッカーヘルスマネジメント株式会社関西研究所 代表取締役) 疲労に伴う「ヒヤリ・ハット」発生の防止のために始業・終業点呼時の運用を目的としたフリッカー値を用いた疲労計測システムを開発した。フリッカー値とは点滅する光の点滅感覚が発生する周波数閾値で、疲労とともに減少する性質を有し、衛生学、産業衛生学、人間工学の分野で用いられてきた。これまで運輸業の実際の現場での運用上の課題を技術的に解決し、現場でのスムーズな運用を実現したシステムを開発した。
15 : 30～15 : 50	学童・高齢者向け交通安全ビーコンシステムのご提案 林 昌二郎氏 (テクダイヤ株式会社 経営企画室 プロジェクトリーダー) 小学生の歩行交通事故死者のうち52%が「登校・下校中」に発生しています。また歩行者死者数のうち高齢者が70%を占めています。(平成24年ITARDA資料より) 現在自動ブレーキが話題となっていますが、機能に制限があり普及にはまだ時間を要します。当社では無線を利用した”死角のない”交通安全運転支援機器を開発中です。この画期的で低コストな機器をご紹介、安全運転のための導入ご提案をいたします。

運輸システムEXPO2015 5月28日(木)展示会場内セミナープログラム

13:00~13:20	DHLによるサステナブルなパッケージソリューションの事例紹介 宮崎 恵之助氏(DHLサプライチェーン株式会社 パッケージソリューション マネージャー) 今日の輸送における段ボール箱などのワンウェイパッケージに対し、地球環境やその持続可能性に配慮したリターナブルパッケージが求められているが、実際の運用では回収の仕組みが不十分であったり、回収費用を含めたコストが嵩むという課題がある。ロジスティクス企業としてのDHLによる、輸送・荷役・保管のトータルコストに配慮した超寿命型リターナブルコンテナやエア系緩衝材の開発事例を紹介する。
13:30~13:50	商用車用新製品『オイルキャッチャー』のご紹介 富樫 護氏(ナブテスコオートモーティブ株式会社 営業部第二営業課) 国内の中型車、大型車にはエアドライヤが必ず搭載されている。そのエアドライヤより排出されるパージエアには、水分、油分が含有している。パージエアは大気に放出される為、含有している水分、油分で車両や納入先敷地を汚してしまう。そのパージエアをキャッチして閉じ込めてしまう製品が”オイルキャッチャー”である。
14:00~14:20	モービルアイによる車間秒数の計測と指導について - 後付け可能な衝突防止補助システム 佐藤 元気氏(ジャパン・トウエンティワン株式会社 アイモバイル事業部 執行役員) 日産やホンダ、ボルボ、BMWのメーカーオプションとして実績のあるシステムの後付け版です。現場のドライバーが日頃実際にどの程度車間を空けて運転しているのかの計測、確認が可能です。また、管理者にて設定した車間秒数以下での走行時には警報音を出すことができるので、車間秒数に関する会社の方針を徹底することができます。前方車への衝突の危険、ヒヤリハットが発生する回数を抑え、前方の事故を大きく削減します。
14:30~14:50	WMSユーザから学ぶ、コスト削減と品質向上のためのシステム解決法 菱田 有希子氏(株式会社シーネット 営業本部) 荷主からのコスト削減要請や物流品質向上が強く求められている運輸業界において、倉庫管理システム(WMS)で実現できる課題解決法とは？ユーザ様の事例から、各社が抱えていた管理方法の課題や、出荷ミス・コスト削減における問題をWMS導入によってどのように解決したのか、どのくらいの効果が得られたのかなど、リアルな事例と数値でご紹介します。
15:00~15:20	物流業界の今とこれから「輸送品質向上に向けて」 山田 秀憲氏(日米電子株式会社 ソリューション事業本部 統括部長) 『今』運輸業界に求められる、デジタコ義務化への対応や安全運転支援、輸送品質向上、またドライバー不足の懸念やエコドライブへの対応等、弊社導入事例を交え対応策をご案内いたします。また、それに加え更なる品質向上や法改定への対策等、『これから』求められる輸送品質についてをお話しさせていただきます。30年を超える車両動態管理の経験を基に、日米電子の考え、メッセージをお届けいたします。
15:30~15:50	携帯電話・スマホ・通信機能付きハンディ・ターミナルを活用！ 配送進捗管理を主としたシステム導入事例 佐藤 桂子氏(株式会社コムアソート ソリューション営業部 チーフアナリスト) ドライバー様が配送先に「到着」「出発」などの状況を携帯電話やスマホからボタンを押すことで運行管理者様に通知するシステムをベースとしています。お客様のニーズに応じた配送進捗管理システムに仕上げます。たとえばカゴ車の管理や荷物などの検品、Web上での荷主様への配送報告、その他事例を交えてご紹介いたします。

運輸システムEXPO2015 5月29日(金)展示会場内セミナープログラム

13:00~13:20	<p>クラウドサービス活用で業務改善！ KYOEI 物流ソリューションのご紹介 長谷川 洸氏(協栄産業株式会社 ソリューション第一事業部 営業部)</p> <p>近年は法改正だけでなく荷主企業からの要求も更に多様化しており、業界を取り巻く環境は日々刻々と変化しています。この変化に対応するべく、ITを有効活用し業務改善を進めることは必須課題といえます。本セミナーでは、音声応答(IVR)を活用した新しい配送進捗管理の仕組みをクラウドでサービス提供する「KYOEI IVR配送進捗サービス」の他、運賃計算システム等、業務改善の為のソリューションに焦点を当ててご紹介致します。</p>
13:30~13:50	<p>携帯電話・スマホ・通信機能付きハンディ・ターミナルを活用！ 配送進捗管理を主としたシステム導入事例 佐藤 桂子氏(株式会社コムアソートソリューション営業部 チーフアナリスト)</p> <p>ドライバー様が配送先に「到着」「出発」などの状況を携帯電話やスマホからボタンを押すことで運行管理者様に通知するシステムをベースとしています。お客様のニーズに応じた配送進捗管理システムに仕上げます。たとえばカゴ車の管理や荷物などの検品、Web上での荷主様への配送報告、その他事例を交えてご紹介いたします。</p>
14:00~14:20	<p>後付け可能な衝突防止補助システム、モービルアイについて 佐藤 元気氏(ジャパン・トウエンティワン株式会社 アイモバイル事業部 執行役員)</p> <p>日産やホンダ、ボルボ、BMWのメーカオプションとして実績のあるシステムの後付け版です。カメラを使った画像認識を元に、前方車両との追突の危険がある時や車線を逸脱しそうな時に警報音にてドライバーに注意喚起を行います。日本国内で発売開始3年半にて3万台を超える車両への導入実績があり、大型のトラック・バスから小型の軽自動車まで取り付けが可能です。</p>
14:30~14:50	<p>WMSユーザから学ぶ、コスト削減と品質向上のためのシステム解決法 菱田 有希子氏(株式会社シーネット 営業本部)</p> <p>荷主からのコスト削減要請や物流品質向上が強く求められている運輸業界において、倉庫管理システム(WMS)で実現できる課題解決法とは？ ユーザ様の事例から、各社が抱えていた管理方法の課題や、出荷ミス・コスト削減における問題をWMS導入によってどのように解決したのか、どのくらいの効果が得られたのかなど、リアルな事例と数値でご紹介します。</p>
15:00~15:20	<p>夏場のアイドリングストップの支援と、乗務環境の改善 渡辺 有生氏(太陽工業株式会社 物流システムカンパニー 環境企画営業部)</p> <p>①燃料費高シヨウ対策！ 夏場のアイドリングを削減できれば→年間的大幅削減が可能になります。一方 ②安全運行の対応！ 夏場のアイドリングストップは、乗務員にとって厳しい環境です。物流センター等での無理なアイドリングストップは熱中症や過労による事故につながります。これらの相反する課題をエアースタイルは解決します。省エネ大賞受賞製品です。</p>
15:30~15:50	<p>DHLによるサステナブルなパッケージソリューションの事例紹介 宮崎 恵之助氏(DHLサプライチェーン株式会社 パッケージソリューション マネージャー)</p> <p>今日の輸送における段ボール箱などのワンウェイパッケージに対し、地球環境やその持続可能性に配慮したリターナブルパッケージが求められているが、実際の運用では回収の仕組みが不十分であったり、回収費用を含めたコストが嵩むという課題がある。ロジスティクス企業としてのDHLによる、輸送・荷役・保管のトータルコストに配慮した超寿命型リターナブルコンテナやエア系緩衝材の開発事例を紹介する。</p>

運輸システムEXPO2016 開催のご案内

2016年5月25日(水)～27日(金)
東京ビッグサイト 西ホールで開催いたします。

詳細は、別途ご案内させていただきます。

【出展に関するお問い合わせ先】

運営事務局 日本イージェイケイ株式会社

tech@ejk-japan.co.jp

TEL:03-6459-0444 FAX:03-6459-0445

〒105-0011 東京都港区芝公園1-2-6 ランドマーク芝公園7F

公式サイト: <http://www.truckexpo.jp>

2015年8月31日まで**出展料金が10%値引**になる、
早割出展申込みを受付中です。
早割出展申込みのご希望は、運営事務局まで
お気軽にご相談ください。

次回、取り上げてほしい展示会テーマ、セミナーテーマについても
お気軽に事務局までご相談ください！